

茨内水試

現在の水質

前回、述べましたように北浦で7月に入って増えはじめたネンジュモは透明度を50センチにひきさげる程に増えましたが19日頃から急に枯死しはじめ、21日には透明度は50から130センチに急上昇しました。

普通、プランクトン、例えばアオコは、水中の栄養、炭酸ガスそれに太陽エネルギーを利用してアオコ自身が増えると同時に水中に酸素を供給します。しかし、アオコが増え過ぎると、まず、アオコ自身が太陽光線の透過を妨げ、また、栄養の供給もまにあはなくなり、枯死します。枯死すると、当然、酸素の生産は、止まりますが、更に、アオコ自身が酸素を消

費し急激に酸素量が低下します。

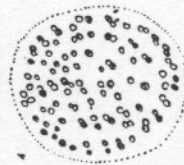
7月21日の北浦の酸素量の低下は、それまで増え続けてきたネンジュモの枯死にともなうもので、特にそれが吹きだまったところで顕著でした。酸素量の低下にともないリンやチツソが底泥から出てきて水中に添加されていますから今期のアオコのかたは例年より多くなるものと考えられます。ばつき装置などの点検は怠りないう。

霞ヶ浦では、しばらくの間植物プランクトンが少なく酸素量も低位に推移していましたが、やっとらん藻類のネンジュモやアファノカプサが増えてきて酸素量は向上きかげんとなってきたようです。例年なら、とっくに出ているはずのアオコはちらほらみられる程度です。このままアオコにかわって行けば環境は安定するものとおもわ

れますが、高浜入りでは、7月北浦に出現したネンジュモががんばり続けているので、いま、しばらく、この動きを見守る必要があります。



北浦はアオコ



霞ヶ浦はアファノサ

地点	木原	湖心	馬渡	白浜
窒素	1.0	1.0	3.3	1.5
リン	0.07	0.07	0.41	0.08

7月30日観測

解禁日の漁獲状況

解禁日の漁獲の状況は、その年の漁を占う最も重要なものですから、漁業者のみなさんは勿論のこと、私達内水試の職員も期待と不安で、この日を迎えました。霞ヶ浦では、平均1隻当り50KGで1週間後には、20KGに減少してしまいました。これは、漁獲量が411トンだった昭和58年と同傾向で前年の半分程度といえます。北浦では、解禁日には、50KG、1週間後には、30KGで、こちらも前年の半分程度でした。こうした状況から判断して、今年の漁獲量は、前回述べましたように6001800トン程度となりそうです。

